

舞踊評

現代舞踊協会の新人舞踊公演は、最初から通算すると二二六回になるのだそうだ。ここから巣立った多くの舞踊家がいる。舞踏の創始者の土方巽も、海外で活躍した者の多くも、今の協会幹部のほとんどすべてもここで踊っていたのだ。その果たした役割は大きなものがある。今回の「ダンスプランニング」では、二日間三〇作品が上演された。私はその第一日の十五本を見た。

最も印象に残ったのは、猪野沙羅・名越晴奈「Limit」時空を超える」だった。二人は坂本秀子舞踊団に所属しており、激しい群舞の中で鍛えられたものがベースになっ

て「ぼくグループ」作品「凸凹」は、林衣織・林茶織・廣澤萌衣・廣澤瑠衣の四人の元気な踊り。井上恵美子モダンダンススタジオで感情を叫びっぱい吐露する日常の実績が

村山は豊田麗帆・鈴木奈介ダンスアトリエ所属。日本的なしっとり感が魅力だった。山内は、二見一幸カレイドスコップ所属。動きの緻密な積み上げに迫力があつた。曲沼は、

の推薦で出た松彩香「DANCING FOR LIFE」少女の夢が叶う時」は、檜千尋に師事し、九人の群舞をさらりと披露した。十一日の後半は、フラメンコ作品の上演もあった。

印象に残った「Limit」時空を超える」

新人舞踊公演「ダンスプラン2018」

ていた。高橋郁「白いしるし」は、寺崎ゆい、藤本理沙とのトリオの踊り。加藤みや子、木原浩太に師事して身につけた自由な動きの展開がそのまま現われていた。

そのまま表れた舞台だった。ソロでは、村山藍子「てんのはな」、山内梨恵子「卑弥呼の鏡」、曲沼宏美「輪くま」

坂本秀子らに師事。時間をかけて身につけた安定感にじみ出た。門間は、横山慶子ダンスカンパニー所属。東北支部の推薦で出場し、横山真理の振付を丁寧に踊った。支部

という実演入りのミニ講座があつた。これを体験して、自分もやってみようという人が出てくれば、舞踊文化の振興になる。このような地道な努力が次の時代を作ることになるだろう。(三月十日、スペースゼロ) 山野 博大

そのまま現われていた。

がそれぞれにおもしろかった。

の振付を丁寧に踊った。支部

の推薦で出た松彩香「DANCING FOR LIFE」少女の夢が叶う時」は、檜千尋に師事し、九人の群舞をさらりと披露した。十一日の後半は、フラメンコ作品の上演もあった。

山野 博大